

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県 吉川市

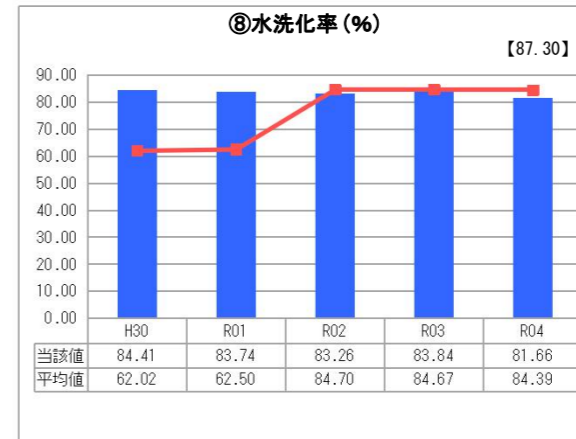
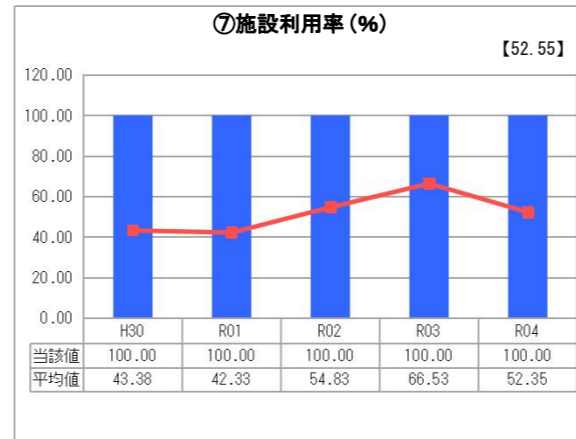
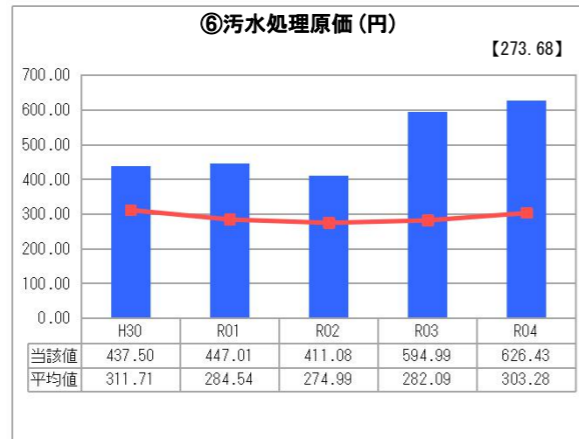
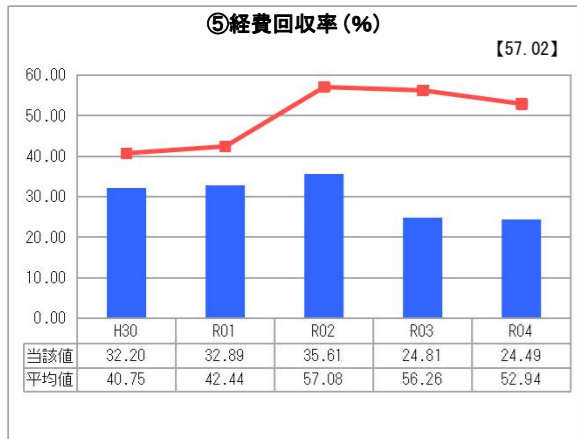
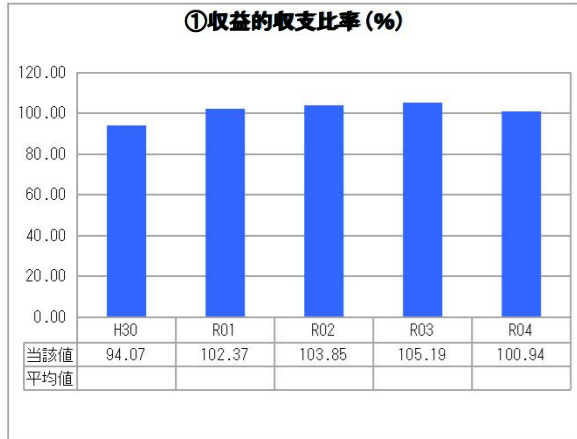
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	0.63	100.00	3,520

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
73,001	31.66	2,305.78
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
458	0.21	2,180.95

**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、前年度から引き続き100%を超えており、収支は黒字となっている。しかしながら、処理区域内人口が減少し続けているため、収益は一般会計からの繰入金に依存している状況である。

④前年度と比較し、企業債残高の減少に伴い、企業債残高対事業規模比率も減少している。類似団体と比較しても高い水準であるが、管路施設などの必要な設備投資が完了していることなどから、今後も減少が見込まれる。

⑤前年度と比較し、処理区域内人口の減少により0.32ポイント減少した。処理区域内の大規模な開発もなく、前年度同様、依然として低い状況であり、使用料以外の収入に依存している状況である。

⑥1㎡あたりの汚水処理に要した費用であり、前年度から31.44ポイント増となっている。当事業は事業規模が小さく、さらに処理区域内人口も減少傾向であることから、今後も汚水処理原価の増加が見込まれる。引き続き、施設維持管理経費などの見直しを行い、事業の効率化等を図っていく。

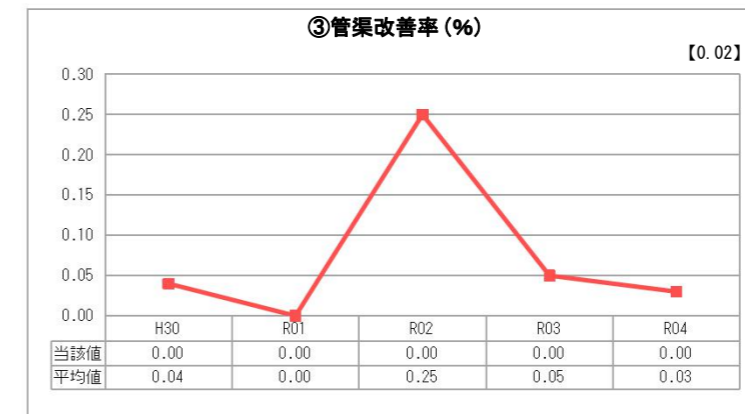
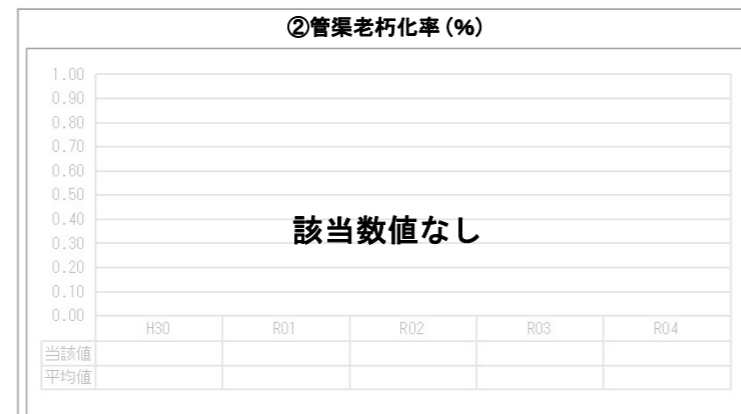
⑦前年度から引き続き100%となっており、類似団体と比較しても高い水準となっている。

⑧水洗化率は、引き続き、横ばい～微増の状況が続いている。類似団体と比較しても同水準となっており、引き続き、安定した経営を継続できるよう100%達成に向け、より一層区域内の接続を推進する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

③平成17年の供用開始から17年が経過しているものの、管渠の耐用年数は50年であり、老朽化は認められないため、現時点で更新の予定はない。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

当事業では、計画エリア内の管路敷設は完了しており、今後の運営は、施設維持管理が主体となる。しかし、経営に当たっては、経費回収率が示すとおり、使用料収入のみでは必要な経費を賄えず、一般会計からの繰入金に依存している状況である。今後は、令和3年度に策定した最適整備構想に基づき、必要な施設更新事業費の平準化を図りつつ、地方公営企業法を適用し経営の状況を明らかにした上で、最も効率的・効果的な取り組みと経営改善について検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。